

2012/5/21

【前日発表の経済指標】*は改定	今回実績	予想	前回実績
15:00(独)生産者物価指数(PPI) 前月比(4月)	0.2%	0.3%	0.6%
21:30(加)消費者物価指数(CPI コア) 前月比(4月)	0.4%	0.2%	0.3%
21:30(加)消費者物価指数(CPI コア) 前年比(4月)	2.1%	1.9%	1.9%
21:30(加)消費者物価指数(CPI) 前年比(4月)	2.0%	1.9%	1.9%
21:30(加)消費者物価指数(CPI) 前月比(4月)	0.4%	0.3%	0.4%

【特記すべき発言、ニュース】**安住財務相**

ギリシャのユーロ圏離脱は、そう簡単ではない。財政再建策をしっかりと進めることがギリシャにとって大切。現時点では6月のギリシャ総選挙の結果を見守りたい。

ドイツ政府報道官

メルケル独首相、パプリアス・ギリシャ大統領にギリシャ政府が機能することへの期待感を表明。

仏首相

ギリシャがユーロに留まることが優先課題。ギリシャがユーロに留まるために、財政的な支援が必要。

中国外務省報道官

債務危機克服に向け引き続きEUを支援する。

ボーゼン英 MPC 委員

経済は思ったよりも弱い可能性。コアのインフレ率が低下することを確信。1250億ポンドの資産購入枠拡大については現在、検証中。

オランダ・スタンダード紙報道

『ギリシャのユーロ離脱に備える緊急策を策定中』と欧州委員会のデフフト委員（通商担当）の発言を引用して報道。

スペイン中銀

国内金融機関の不良債権比率は、1994年8月以降で最高の8.37%。

ギリシャ政府報道官

メルケル独首相はギリシャへの支援を表明した。独首相は、EUはサミットで成長政策を検討するとした。独首相は、ユーロの残留を問うギリシャの国民投票を提案。

独政府

ギリシャに対しユーロの残留を問う国民投票を提案したとのギリシャ暫定政府の主張を棄却。

ギリシャ暫定政府

ユーロの国民投票は任務を上回る。

ゴンサレスパラモ ECB 専務理事

ECBはギリシャがユーロ圏にとどまることを強く望む。

ショイブレ独財務相

ギリシャからの波及の金融市場の混乱、あと2年続く公算。

レーン欧州委員会委員

EUはギリシャに財政規律を維持するよう引き続き圧力をかける。EUはギリシャがユーロ圏にとどまるよう努力している。

オバマ米大統領

債務危機は成長を伴う財政削減のバランスが必要。

【前日 の主要株式、商品価格】

	OPEN	HIGH	LOW	CLOSE	前日比
日経 225	8,727.58	8,735.54	8,588.16	8,611.31	-265.28
ダウジョーンズ	12,443.02	12,492.97	12,336.76	12,369.38	-73.11
ナスダック	2,814.43	2,827.28	2,774.45	2,778.79	-34.90
NY 金先物	1,574.5	1,597.5	1,567.8	1,591.9	+17.0
NY 原油先物	92.86	92.88	90.93	91.48	-1.08

【前日までのマーケット】

午前のドル円は昨日の急落から一旦小幅に調整地合い。日経平均株価の前日比大幅安を嫌気した円買いもこなしつつ、仲値を挟んで 79 円 45 銭まで上値を伸ばした。ユーロ円は 100 円 83 銭まで持ち直すも、アジア株式市場の軟調からリスク回避色の強まった市場ではさすがに頭が重くなった。オセアニア時間の下値試しから反発していたユーロドルは再び 1.2669 付近までじり安。豪ドルも対ドルで 0.9834、対円で 78 円 09 銭まで軟調推移となった。東京午後は、日経平均株価が 1 月 19 日以来の 8500 円台をつけるなど、アジア株式市場が軒並み軟調推移。時間外の原油先物取引が半年ぶりの安値へ急落するなど、市場のリスク回避が加速した。欧州問題の不透明感が拭えないユーロは対円で前日安値へのトライとなり、一時 2 月 6 日以来となる 100 円 21 銭の安値付け。ドル円も 79 円 19 銭まで下落、豪ドルも対ドルで昨年 11 月 28 日以来となる 0.9793、対円では 77 円 57 銭まで続落した。

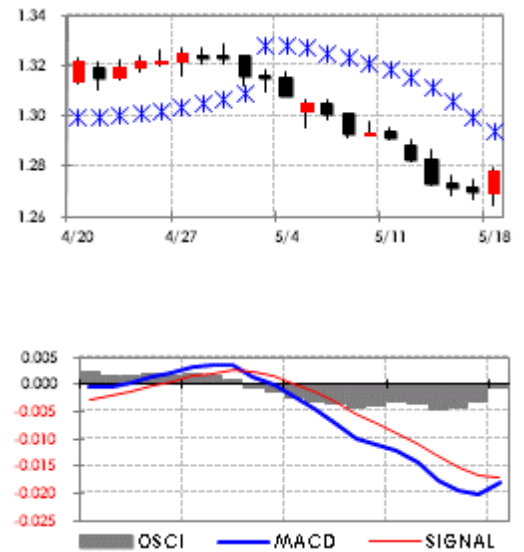
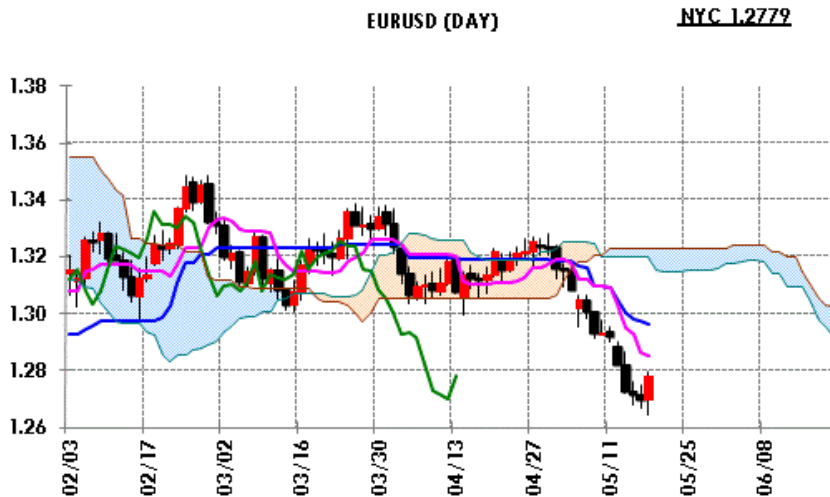
海外市場では、週末を前に 18□19 日の主要国(G8)首脳会議(キャンプデービッド・サミット)を控え、ポジション調整からユーロは買い戻しの動きが中心となった。ユーロは対ドルで東京時間の底値 1.2642 から続伸し、最終的に 1.2794 まで上値を伸ばした。ニューヨーク時間には、オランダ・フランス大統領が「我々はギリシャのユーロ圏残留のためにあらゆることを行う必要がある」との発言が伝わったことなどもユーロのショートカバーを後押しした。一方ドル円は続落。欧州市場序盤は持ち直しも見せていたが、米国時間にナスダックに新規上場(IPO)した米ソーシャル・ネットワークキング・サービス(SNS)大手フェイスブックの株価動向が期待ほど盛り上がりせず、ダウ平均が一時 100 ドル超下落するなど投資家心理が冷えると円買いドル売りが優勢となった。ユーロドルのドル売りにもつれたドル円は 78 円 99 銭まで下落することとなった。ユーロ円はドル円の下落に相殺されつつも、ユーロドルの大幅上昇に支えられ 101 円 09 銭までじり高。東京時間の底値から 78 円 45 銭付近まで持ち直していた豪ドル円は、米国市場のリスク回避による円買いをうけて、77 円 55 銭まで下落した。

【本日のマーケット】

週末に行われた主要国(G8)首脳会議では、ギリシャが引き続きユーロ圏にとどまることを促すとともに、欧州債務危機によって脅威にさらされる世界経済再生のため必要なあらゆる措置を講ずるとの宣言などを採択して閉幕した。また、ギリシャの最新世論調査で連立政権が 41%(164 議席)を確保したことや、ギリシャの急進左派連合党首であるツィプラス氏が「再選挙に勝利しても、ユーロ圏から離脱することにはならない」との見解を示したことも、ユーロにとっては追い風となっている。ただ、ギリシャ問題がこれで解決するはずもなく、ユーロの上値は今後も手探り状態が続くものと思われる。また、明日から日銀金融政策決定会合が開かれる。政策金利など会合結果の発表は明後日となるが、金融政策維持が見込まれているため、円の強気筋にとって発表前まではドル円下値試しの好機にされる可能性もある。78 円台より下では、政府・日銀による覆面介入の可能性も囁かれているため、ドル円がなお軟調気配を示すときは注意したい。なお、本日は米国指標はじめ、主要な指標の発表も少ない。相場は調整地合いになることも考えられるが、特に欧州問題に関しては要人の発言等に気を配りたい。

EURUSD 日足 一目均衡表

パラボリック & MACD



【本日・明日発表予定の経済指標】

	予想	前回実績
08:01(英) ライトムーブ住宅価格 前月比(5月)	N/A	2.9%
13:30(日) 全産業活動指数 前月比(3月)	N/A	-0.1%
14:00(日) 景気先行指数(CI)・改定値(3月)	N/A	96.6
14:00(日) 景気一致指数(CI)・改定値(3月)	N/A	96.5
14:45(ス) スイス SECO 消費者信頼感指数(4月)	N/A	-19
18:00(欧) 建設支出 前年比(3月)	N/A	-12.9%
18:00(欧) 建設支出 前月比(3月)	N/A	-7.1%

本レポートはお客様の投資に関する断定的判断を提供するものではなく、また当社はその内容に関する一切の責任を負うものではありません。また、情報の内容について予告なく変更になる可能性があります。お客様の資産運用および取引についての最終的判断はお客様ご自身の判断と責任に委ねられています。

本文書に係る著作権およびその他の知的財産権は、セントラル短資FX株式会社(以下、CTFX)に帰属します。本文書は、CTFXの事前の明示的な承認を得た場合を除き、いかなる方法においても複製、複写または受領者が属する企業以外のいかなる団体およびその所属人員に対しても転送または再配布してはなりません。本文書を受領することにより、お客様はこれらの条件に同意したものと致します。また本レポートは情報提供のみを目的としたもので売買を推奨するものではありません。運用にあたっての最終的な判断はお客様自身の責任に委ねられています。 Copyrights (c) 2009 Central Tanshi FX Co.,Ltd.